

## 新約聖書の中の祈り 第10回

## □「新約聖書の中の祈り」のアウトライン

1. イエスの祈り
2. 福音書における他の祈り
3. 使徒の働きにおける祈り
4. 書簡における祈り

□「福音書における他の祈り」・・・福音書の中から、イエス以外の祈りについて4つの事例を取り上げる。

1. ルカ 1:10 彼（祭司ザカリヤ）が香をたく間、外では大勢の民がみな祈っていた。
  - (1) スケジュール化された祈りの時間における祈り
  - (2) 祭司が神殿に入って香を焚いている間、神殿域では祈りがささげられていた。
  - (3) この祈りは、定型文を暗唱しての祈りであった。
2. ルカ 1:13 御使いは彼に言った。「恐れることはありません。ザカリヤ。あなたの願いが聞き入れられたのです。あなたの妻エリサベツは、あなたに男の子を産みます。その名をヨハネとつけなさい」
  - (1) 願い<sup>ギ</sup>デエーシス、願い求め
  - (2) 祭司ザカリヤは、息子を授かるように祈っていた。
  - (3) 天使が現れて、その願いは聞き入れられた、と告げた。
3. ルカ 2:36~38 アシエル族のベヌエルの娘で、アンナという女預言者がいた。この人は非常に年をとっていた。処女の時代の後、七年間夫とともに暮らしたが、やもめとなり、84歳になっていた。彼女は宮を離れず、断食と祈りをもって、夜も昼も神に仕えていた。ちょうどそのとき彼女も近寄って来て、神に感謝をささげ、エルサレムの贖いを待ち望んでいたすべての人に、この幼子のことを語った。
  - (1) 祈り<sup>ギ</sup>デエーシス、願い求め
  - (2) 女預言者アンナの祈りの内容は、願い求め。特に、メシア待望の祈り。
  - (3) アンナの祈りには、断食が伴っていた。
  - (4) アンナは幼子イエスを見たとき、祈りが答えられたことを聖霊に示され、神に感謝の祈りをささげた。
4. ルカ 5:33 彼ら（パリサイ人たち）はイエスに言った。「ヨハネの弟子たちはよく断食をし、祈りをしています。パリサイ人の弟子たちも同じです。ところが、あなたの弟子たちは食べたり飲んだりしています。」
  - (1) パリサイ人たちは、イエスの弟子たちが断食をしないことを指摘した。断食をす

るのは、自分たちパリサイ人だけでなく、先駆者ヨハネの弟子たちもそうであると引き合いに出した。

(2) 祈り<sup>ギ</sup>デエーシス、願い求め

(3) 先駆者ヨハネの弟子たちの祈りの内容は、何かを願い求めるものであった。

#### 5. 4つの事例に関するまとめ

(1) 当時、ユダヤ人の間で一般にささげられていた祈りは、あらかじめ決められた文章（定型文）の祈りを、暗唱しての祈りであった。

(2) しかし、時には、その場その時に、心の中から出て来ることばを祈ることがあった。祭司ザカリヤが男子を授かるように祈っていたのは、定型文の祈りではなく、自分の心の中から出てきたことばでの祈りであった。

(3) 祈りの内容は、大方、<sup>ギ</sup>デエーシス、願い求めであった。

□「使徒の働きにおける祈り」・・・「使徒の働き」の中から、27の祈りの事例を見る。本日は、第1から第3の、3つの事例。

1. 使1:13~14 彼ら（11人の使徒たち）は町に入ると、泊っている屋上の部屋に上がった。この人たちは、ペテロとヨハネとヤコブとアンデレ、ピリポとトマス、バルトロマイとマタイ、アルパヨの子ヤコブと熱心党员シモンとヤコブの子ユダであった。彼らはみな、女たちとイエスの母マリヤ、およびイエスの弟たちとともに、いつも心を一つにして祈っていた。

(1) いつも・・・イエスの昇天から聖霊の降臨までの10日間、毎日

(2) 心を一つにして・・・グループでの祈り

(3) 使1:4の命令「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい」を受けての祈り

① 父なる神の約束を待つことの具体的な行動は、祈ることであった。

② 父なる神の約束とは、ヨハネ14:16~17「わたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてくださいます。この方は真理の御霊です。世はこの方を見ることも知ることもないので、受け入れることができません。あなたがたは、この方を知っています。この方はあなたがたとともにおられ、また、あなたがたのうちにおられるようになるのです。」

(4) 祈りの内容は、2つ

① 父なる神の約束が成就しますように →使2章 聖霊の降臨

② ユダに代わる使徒が立てられますように→使1:15~26（第二の事例）

(5) 定型文による祈りではなく、祈る人の心の中から出てきたことばによる祈り

## (6) 【補足】

- ① 使徒が 12 人揃う必要性・・・マタイ 19 : 28、メシアの王国においてイスラエルの 12 の部族を治めるのは、12 人の使徒たち
- ② 十二使徒以外の使徒・・・イエスの公生涯で行動を共にしたわけではないが、復活のイエスに出会っていて（I コリ 9 : 1）、イエスによって使徒として召された（I コリ 1 : 1）人たち。聖書に記されたのは、次の 3 人
  - イエスの弟ヤコブ（I コリ 15 : 7、ガラ 1 : 19）
  - パウロ（使 9 : 5、I コリ 1 : 1）
  - バルナバ（I コリ 15 : 6 の「500 人以上の兄弟たち」の一人であったと推定される、使 14 : 14、I コリ 9 : 6）

2. 使 1 : 21~26 ですから、主イエスが私たちと一緒に生活しておられた間、すなわち、ヨハネのバプテスマから始まって、私たちを離れて天に上げられた日までの間、いつも私たちと行動をともした人たちの中から、だれか一人が、私たちとともにイエスの復活の証人とならなければなりません。そこで彼らは、バルサバと呼ばれ、別名をユストというヨセフと、マッティアの二人を立てた。そしてこう祈った。「すべての人の心をご存じである主よ。この二人のうち、あなたがお選びになった一人をお示してください。ユダが自分の場所へ行くために離れてしまった、この奉仕の場、使徒職に就くためです。」そして、二人のためにくじを引くと、くじはマッティアに当たったので、彼が十一人の使徒たちの仲間に加えられた。

- (1) 120 人ほどの人々が集まっている集会で、十一人の使徒たちが祈った。これは、グループでの祈りである。
- (2) 定型文を暗唱しての祈りではなく、その場その時に、主に語りかけるように、心の中から出て来たことばによる祈りである。
- (3) 祈りの内容は、二人の弟子のうち、どちらを使徒職に就かせるのか、神のみこころを問う祈りである。具体的には、今からくじを引くので、神が選んだ方にくじが当たりますように、という祈りである。

3. 使 2 : 40~42 ペテロは、ほかにも多くのことばをもって証しをし、「この曲がった時代から救われなさい」と言って、彼らに勧めた。彼のことばを受け入れた人々はバプテスマを受けた。その日、三千人ほどが仲間に加えられた。彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。

- (1) 使 2 章 聖霊降臨と教会（召された者たちの集まり）の誕生
  - ① 1~13 節 紀元 30 年、五旬節の祭りの日に、聖霊降臨
  - ② 14~39 節 祭りに来ていたユダヤ人たちに対して、使徒ペテロが証言をする
  - ③ 40~42 節 聴衆の中から三千人ほどが、イエスをメシアとして信じた

- (2) 42節では、初代教会がどういうことをしていたか、よくわかる。いつも→継続的・定期的に、グループで祈るために集まった。毎日、時間を決めて集まっていたのであろう。
- ① 使徒たちの教えを守る
  - ② 交わりを持つ
  - ③ パンを裂く
  - ④ 祈りをする
- (3) 祈りは、定型文を暗唱して祈ることもあったかもしれない。しかし、おそらく、その場その時に、心の中から出て来たことばによる祈りが主体であったと推測される。
- (4) 集まっていた場所・・・使 2:46~47 そして、毎日、心を一つにして宮に集まり、家々でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、神を賛美し、民全体から好意を持たれていた。主は、毎日、救われる人々を加えて一つにしてくださいました。
- ① 神殿域の中に場所を定めて集まった。そこでは、使徒たちが教え、祈りがささげられた。「心を一つにして」とは、グループで祈った、ということ。
  - ② 信者の家々で集まった。そこでは、パンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、神を賛美した。
    - 「パンを裂き」・・・マタイ 26:26~29、I コリ 11:23~26、26節「主が来られるまで主の死を告げ知らせるのです」 主の死を告げ知らせるとは、I コリ 15:3~4 福音の3要素を知らせること → 聖餐式は信者が受けるものであるが、その場にいる未信者にとっては、福音の基本を聴く機会となる
    - 食事をともにする・・・食べ物を分け合ったということ、「交わりを持つ」の具体的内容のひとつ。当時は、イエスをメシアと認めると、「会堂から追放される」(ヨハネ 12:42)、これは社会的・経済的な生活基盤を失うことを意味した。使 2:44~45、「信者となった人々はみな一つとなって、一切の物を共有し、財産や所有物を売っては、それぞれの必要に応じて、皆に分配していた」とは、そのようにして信者が互いに助け合うべき切迫した必要があったためである。
    - 神を賛美する・・・賛美の歌を歌う、神をほめたたえる祈りをする
    - 民全体から好意を持たれていた・・・周囲の、まだイエスをメシアと認めていないユダヤ人たちも、好感をもって集会を見ていた。もちろん未信者が集会に参加することは歓迎されたので、参加した未信者の中から、毎日、救われる人々が加えられた。